

単元名 4 状況の中で 一聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る 配当時間 1時間

単元の目標 (1) 話し手や聞き手として、対談の中で、適切な言葉遣いをすることができる。
 (2) 自分の知識や経験などと結び付けながら話を聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができる。
 (3) 質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えることができる。
 (3) 粘り強く話の展開を予測しながら聞き、今までの学習を生かして質問したり評価を述べたりしようとする。

標準的な展開例

12210203_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 質問で相手の思いや考えに迫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ 聞き上手になって、質問で相手の思いに迫ろう。 ○ 対談の準備をする。 ○ 対談を行う。 ○ 学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもたせる。 ・ 3～5人で一組となり、話し手(1人)、聞き手(1人)、聴衆(1～3人)を決めさせる。 ・ 聞き手役には、話し手から話題を聞き、中心となる質問を考えたり、話の流れを予想したりさせる。 ・ 話し手役には、いろいろな質問に答えられるように、話題を選んだ理由や具体的なエピソードなどを考えさせる。 ・ 「対談の例」(p.115)を参考にさせる。 ・ 聴衆役には、対談の会場準備と講評メモを用意させる。 ・ 二次元コードを活用してもよい。 ・ 聞き手役には、話し手や聴衆の様子を見て、「具体化」、「価値付け」、「言い換え」などをして、話を引き出させる。 ・ 聴衆役には、講評メモを取らせる。 ・ 「質問で思いや考えを聞き出すには」(p.114)を参考にさせる。 【評】対談する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・ 話し手、聞き手、聴衆、それぞれの立場から対談を通して気付いたことや感じたことを交流させる。 【評】対談を振り返る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

【 備 考 】

中学校の最終学年にふさわしく、厳しい状況下に置かれた人間の姿を読み取り、読み深めていきたい。表現の工夫に注意して読んでいく中で、人物と作者の心情だけでなく、彼らがそのように感じ、考えた時代背景にも目を向けさせたい。そうした人間と社会との普遍的な関わりについて考えを深め、自分なりの意見をもたせたい。「故郷」は、道徳のD－(22)「よりよく生きる喜び」に当たる。